2026 年 11 月 4 日
出光興産株式会社

耐久性・施工性を両立した道路舗装用アスファルト「ミナフォルティス HX」を新発売

道路の長寿命化と維持管理負担の低減に貢献

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明、以下「当社」）は、耐久性と施工性を両立したアスファルト「ミナフォルティス HX（エイチエックス）」を高速道路などの道路舗装向け製品として、2026 年 11 月 5 日に発売します。本製品は、舗装内部での水の影響によるアスファルトと骨材の剥離を抑え、耐水性を高めるとともに、舗装の変形を抑制します。また、現在広く使用されている改質アスファルトⅡ型※1と同様の温度管理のもと、既存の舗装施工機械を用いた施工が可能です。本製品の採用により、舗装の損傷や補修頻度を抑え、ライフサイクルコストの低減に貢献します。

※1 改質アスファルトⅡ型：ポリマーなどを添加して性能を高めた改質アスファルトの一種で、日本の舗装分野で広く使用されている代表的な規格の一つ。



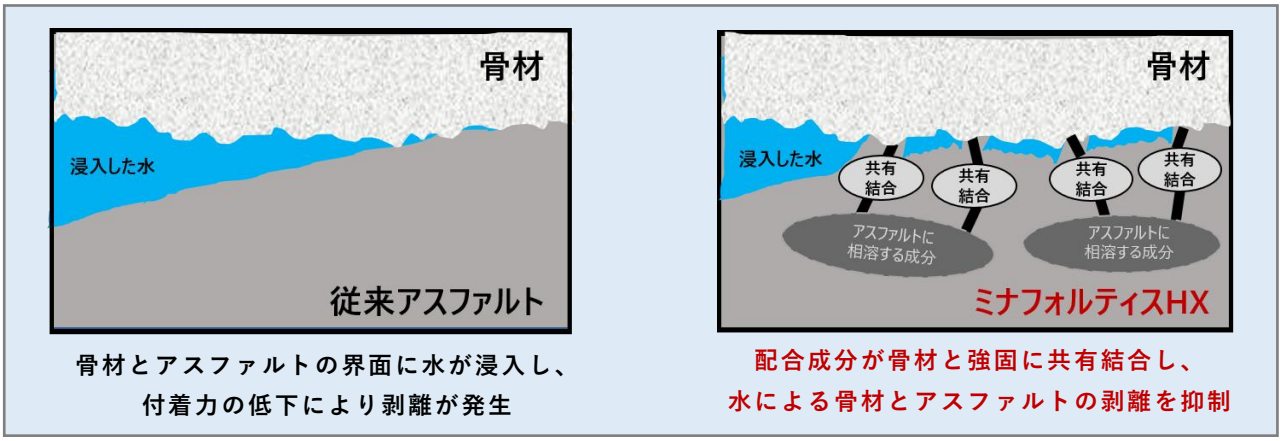
高速道路本線での試験施工の様子

本製品の開発にあたっては、試作品を用いて、高速道路本線の走行車線で試験施工を実施し、実環境下での適用性を確認しました。当該区間では、長期的な耐久性や舗装状態の経時変化を確認するため、現在も追跡調査を継続しています。今後は、別の高速道路区間で製品版の「ミナフォルティス HX」の施工を計画しており、施工性や供用後の舗装状態を継続的に確認していきます。施工実績を着実に積み重ね、高速道路での適用拡大と一般道路への普及を目指します。



高速道路本線の試験施工区間からコア採取※2した舗装サンプル（試作品適用・供用 14 ヶ月後）
※2 コア採取：舗装内部の状態を調べるため、舗装を円柱状に切り出して採取すること

近年、高速道路などの高規格道路において耐水性・耐久性の重要性が増しており、これらの性能を備えた舗装材料へのニーズが高まっています。また、高速道路では施工時間が長くなるほど交通への影響も長引くため、舗装材料には施工性の良さも求められます。通常、舗装には骨材（砕石）、フィラー（石粉）、そしてこれらをつなぐアスファルトを所定の割合で混合した合材が用いられます。しかし、舗装内部に水が浸透すると、アスファルトと骨材が剥離し舗装の強度が低下する場合があります。骨材は、二酸化ケイ素や金属酸化物などの無機物によって構成されています。一方、アスファルトは炭化水素を主成分とする有機物です。このように性質の異なる材料同士は化学的な結びつきが弱いため、水が入り込むと剥離が生じやすいという課題があります。本製品は、当社の独自技術によりアスファルトに骨材の表面と化学的に強固な共有結合を形成する性質を付与しています。この技術により骨材との結合を強化し、水が浸入した状態においても剥離を抑制することで、耐水性および舗装強度を向上させ舗装の損傷を防ぎます。



「ミナフォルティス HX」骨材とアスファルトの結合イメージ

当社は今後も技術力を生かした製品開発を通じて、道路インフラの長寿命化と効率的な維持管理に貢献します。

■製品名の由来

「ミナフォルティス HX」の名称には、高速道路（Highway)などの高規格道路（Heavy-duty road)の長寿命化と持続可能な維持補修に貢献するとともに、共有結合技術の効果によって舗装が強靭になる体験（eXperience）をお客さまに提供し、人やモノの移動を支えるという意味が込められています。

【参考】

・プレスリリース：空港滑走路向け高耐水性アスファルト「ミナフォルティス　CX」を新発売（2024 年 12 月 19 日）

・当社コーポレートサイト：アスファルトとは

～　本件に関するお問い合わせ先　～

出光興産株式会社　広報部広報課
https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease_flow/index.html